

[た よ り]

熊本県支部だより

本田義信

1 成り立ち

昭和 44 年熊本大学医学部付属病院にて血液透析開始以来、熊本市に昭和 45 年民間の透析施設が開業。数年遅れて済生会熊本病院・熊本中央病院・熊本赤十字病院等の公的病院が相次いで透析施設を併設し、その後少しずつ民間の透析施設が開業した。これまで数回に涉って透析施設の会を作ろうとの試みはあったようであるが、平成元年に熊本県透析施設連絡協議会が会長を嶋田病院 嶋田英剛先生として発足し、現在第七代目である。

2 組 織

発足当時より会の目的としては、①県内透析レベルの向上および一定化、②透析医療の資料作成と調査研究、③スタッフの育成と教育、④関係団体との連絡交渉、⑤会員の福利厚生、⑥施設管理運営改善、などとしている。平成 14 年 5 月現在、熊本県下 83 施設の内 67 施設（78%）および患者数約 5,000 人の内 92% が協議会会員施設での維持透析者である。発足後日本透析医会からの要望で、熊本県支部として活動している。

理事は、①熊本市 4 名、②県北・県南より各 1 名、③公的病院 5 名、計 11 名で構成し、会長の任期は 2 年である。会運営資金は各施設より年会費（年会費は透析患者数比）を納入して頂いて運営しているが、各種協議会主催の催しの援助・学会費用の援助に充てている。

3 活 動

1) 自主講演・勉強会

現在自主的運営事業は、協議会発足直後より開催していた「新人スタッフ講習会」を最近「スタッフ講習会」に変更し、新人スタッフのみならずベテランスタッフの参加も認め、知識の再確認をして貰っている。例年 5 月の日曜日に 2 回、協議会会員が講師となり 1 日 4 名、計 8 名の講習会を開催して、毎年 200 名以上の参加者を集めて本年度通算 13 回目を終了した。因みに昨年はリスクマネジメントのテーマを中心に企画した。本年は、①合併症、②ブラッドアクセス、③血液浄化、④腎移植、⑤腎不全の原因、⑥透析のチーム医療（医師・看護婦・ME 技師）をテーマとした。秋には協議会主催で、日常の透析医療に直接関わって居られる日本各地の第一線の先生方に御願いして講演会を開催している。また講演会等は熊本市に集中している傾向のため、公的病院透析医師が熊本市以外の地区に直接出向いての講演会も開催している。

2) 各種催しへの参加

- ① 5 月中旬、熊本県腎臓病患者連絡協議会（熊腎協）総会での会長挨拶
- ② 9 月中旬熊腎協運動会参加および会長挨拶
- ③ 10 月中旬、熊本市健康フェスティバルへの 6 名の相談医師派遣

3) 災害時ネットワークの作成

阪神大震災後、災害対策の組織を作成した。熊本県下を 14 ブロックに分割し、各地域の主たる病院に一

次情報施設、および熊本市内病院に二次情報施設を設けている。

4) 各種講演会の後援

血液透析関連の講演会に共催の要請があれば原則として引き受けている。

5) レクリエーション

① 毎夏には会員各施設との親睦を目的として勤務

医師・技師長・婦長らとのビアパーティ。

② 12月初旬には県下透析施設医師および臨床工学技士との合同ゴルフコンペ。

4 今後の活動

今回の医療費改定に伴い、医療費の削減を目的としての統一利用や会員の希望で、研究・データ集積およびその利用等を考えている。